

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2016年度 助成者)

作成日 2016年9月10日

氏名	古田 穰
研修先機関名	<u>Hawaii Tokai International College</u>
研修期間	2016年8月15日(月)～20日(土)
大学名 学年	日本医科大学 5年

今回の研修を振り返ると、全てが有意義で勇気を出して応募して良かったと心から思います。私は来年に大学の海外実習を控えており、その準備や勉強の指針を得るために今回応募することにしました。5日間という非常に短い期間でしたが、朝から夜までスケジュールが詰まっており、非常に濃い内容でした。

中でも、毎晩行われるハワイ大学(UH)の学生との問診、そして上級医への症例プレゼンテーションの練習はまさに私が望んでいた実習でした。現地の学生・上級医からフィードバックをいただける環境は最高でした。まず問診時に主訴を聞いた瞬間に鑑別診断を浮かべ、ルーチンの問診をした後、その鑑別診断に基づいた質問をしていきます。これだけでも大変なのに、その後これらの情報を統合しプレゼンするのです。英語でフォーマット通りにプレゼンを行って初めて気が付くのですが、症例プレゼンテーションというものは頭の中に正しい診断プロセスがないと絶対に上手くいきません。曖昧なことを言ったら、ボコボコにされます。初日に小林恵一先生がおっしゃった「症例プレゼンを聞けばそのレジデントの実力がすぐに分かる。」という言葉が身に染みてわかりました。プレゼンは上級医に自分の実力をアピールする絶好のチャンスでもあるので、知識を総動員して闘います。まさに真剣勝負の時間です。回数を重ねるごとに確実に成長を感じることが出来ます。いかに自分をアピールするかという考えはいかにもアメリカらしいなと感じました。一回目のプレゼンで自分の不甲斐なさを感じてから、毎晩その日の症例プレゼンを整理し直し暗記するまで練習して翌日に臨みました。英語力の乏しい私は、スラスラ口から出てくるまで暗記する方法をとりました。お陰で、最終日には小林先生からお褒めの言葉をいただくことができました。アメリカの先生は褒め上手だと聞いていましたが、飛び上がるほど嬉しい思いをしました。また、上級医の中にはハワイ大学の日本人レジデントも多くいらっしゃいました。フィードバックを聞いたときに、英語が上手すぎて、この先生方は日系の現地の大学出身のドクターなのだと思います。米国でレジデンシーをするにはこれほどのレベルの英語力が要求されるのかと思いついた瞬間でした。

そして、忘れてはならないのは、全国の意識の高い仲間との出会いです。大学は北海道から九州までと幅広く、6年生も2名参加していたり、そして様々なバックグラウンド(再受験、帰国子女など)を持っている方が多く、毎日切磋琢磨することが出来ました。毎晩お互い夢を語り合い、非常にモチベーションが上がりました。このような似た目標を持った同志とはまたどこかで再会できると信じています。

これからこの研修に参加される後輩の方々にアドバイスをするとしたら、興味があるなら恐れず挑戦しよう、そして参加するなら入念な準備をしようということです。ハワイは日本人に大変寛大ですし、仲間が助けてくれるので心配ありません。また準備して臨めば臨むほどほど、大きなものを得ることが出来ると感じました。例えば私の場合、問診や医学英語は準備した分、自分に足りない部分がありました。レクチャーなどはリスニング能力不足のため理解できないことが多々あり、悔しい思いをしました。是非参加してたくさんものを得てください。

今回の研修を通して、毎日このようなトレーニングが受けることができたならどんなに成長できるだろうと感じ、心の底からハワイ大学でレジデンシーをしたいと思いました。目標を実現させるために今回得た指針を基にますます勉強に励みたいと思います。最後になりますが、今回の研修に携わった全ての方々に感謝申し上げます。